事故調査・検証委が初会合
法規制など四チーム設置

畑村洋太郎・東京大学名誉教授が委員長を務める「東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会」は七日、都内で初会合（＝写真）を開催した。

九名の委員のほか、事務局長として小川新二・最高検検事、技術顧問として安部誠治・関西大学教授と淵上正朗・コマツ取締役が出席した。菅首相も出席し、冒頭で「政府から独立してしっかり判断してほしい」と言及した。

同委員会では、「事故原因等調査」、「被害拡大防止対策等検証」、「法規制のあり方の検討」、「社会システム等検証」の四つの作業チームを設置し、十二月頃に中間報告、来年夏までに最終報告を取りまとめる。海外への情報提供も行っていく。

畑村委員長は委員会後の記者会見で、今月中にも現地を視察し、地震や津波で電源を失ったケースの再現実験を行いたいと意欲を示した。

被曝二百五十ミリSv超
福島第一　作業員内部被曝も評価

東京電力は三日、福島第二原子力発電所の事故対応で、同社社員二名が内部被ばく評価の結果、現在緊急作業時の被ばく線量限度とされている二百五十ミリSvを超えたことを厚生労働省に報告した。作業員の二百五十ミリSv超え報告は初めて。

同二名は、同発電所3、4号機用の中央制御室の運転員。五月三十日に甲状腺のヨウ素131の体内放射能量が高いことが確認されたため、その後、放射線医学総合研究所で被ばく線量の評価作業を行っていたところ、内部被ばくが、三十代男性が二百十～五百十ミリSv、四十代男性が二百～五百七十ミリSvと評価された。これに外部被ばくの各約七十三ミリSv、八十九ミリSvを加えると、明らかに限度の二百五十ミリSvを超えることがわかった。同二名は三月十一日事故発生以降の同十三日に、産業医の指示でヨウ素剤を各人二錠ずつ飲用している。

東京電力では、当時、マスクや防護服の一部に不十分なところがあったものとみている。

二人と同様な作業を行った作業員が約百五十人おり、うち約四十人が放射線量が高いのではないかとみている。同社では、同二名の被ばく線量の確定をはじめ、同発電所での作業員の被ばく線量の測定・評価を進める。

ただ、七日発表の政府事故調査報告書でも、内部被ばくの測定が遅れており、今後、二百五十ミリSvを超えていたとする作業員が一定数でてくる可能性が高い、としている。

避難者帰宅、風評被害で指針
福島原子力損害

政府は五月三十一日、福島の原子力災害に関する損害賠償判定の第二次指針を決定、先の一次指針で対象とならなかった政府避難指示に伴う帰宅費用、出荷制限指示に伴う損害、風評被害などの範囲について、基本的考え方が示された。文部科学省に設置された原子力損害賠償紛争審査会（会長＝能見善久・学習院大学法務研究科教授）で検討を行ってきたもの。

原子力災害発生に伴う避難生活に係わる補償については、「仮払補償金」の支払いが既に進められているが、第二次指針では、福島第一発電所から半径二十km圏内の警戒区域住民に対し実施している一次立入りに伴う費用や、屋内退避区域の指定解除に伴う帰宅費用について、賠償すべき損害とすることとなった。一方、避難生活による精神的損害については、引き続き検討していく。

また、政府による農産物の出荷制限指示により、その後の作付を断念することで生じた減収、同指示の解除後の減収も賠償の対象とすることとされた。

風評被害についても定義し、今回の事故と相当因果関係のあるものであれば、賠償の対象とすることとし、営業損害の他、取引先の要求により実施した検査費用も損害項目に含めることとなった。

三村現職知事が大差で三選
青森県

任期満了に伴う青森県知事選が五日に行われ、即日開票の結果、現職で自民・公明推薦の三村申吾氏（55）が三十四万九千二百七十四票（得票率七四・五三％）を得て三選となった。福島第一原子力発電所の事故を受けて県内の原子力発電対応も争点となったが、同氏は県独自に安全性を検証する委員会を設立する計画を掲げ、「安全なくして原子力なし」と主張して県民の不安払拭に努める姿勢を見せていた。

他に無所属新人で民主・国民新推薦の元県議山内崇氏（56）と、共産公認の新人で党県書記長の吉俣洋氏（37）が立候補したが、それぞれ八万三千三百七十四票、三万五千九百七十二票で敗れた。山内氏は計画中の二つの原子力発電所の凍結を主張、吉俣氏は脱原子力を掲げていた。

元連合会長の笹森清氏が死去

元連合会長の笹森清氏が四日、死去した。七十歳だった。

笹森氏は東京電力労組委員長から電力総連会長を経て、九七年に連合事務局長に就任し、〇一年から四年間連合会長を務めた。労組時代には旧日本原子力産業会議の相談役、原産年次大会の準備委員なども務めた。

「停滞の中の危機」と認識
経産省　産業競争力部会、震災後初

経済産業省の産業構造審議会産業競争力部会（部会長＝伊藤元重・東京大学経済学研究科教授）が一日、一年ぶりに開催された。

開始に先立ち、海江田万里経産相が挨拶に立ち、大震災に伴い、エネルギー供給やサプライチェーンの途絶など、日本に降りかかった新たな制約を認識する一方、「停滞の中の危機だからこそ官民の英知を合わせてわが国の競争力を強化」と、新成長戦略の敢行を明言して、活発な討議を求めた。

経産省は昨夏、新成長戦略の根幹をなす「産業構造ビジョン2010」を策定したが、今回会合では、その後の大震災による日本経済を巡る状況変化を説明した。復旧・復興のための新たな財政負担発生などに加え、東日本を中心とした大規模な電力供給力の減少により、例年にない節電・ピークシフトを強いられているほか、サプライチェーンの途絶、日本ブランドの信頼性低下といった課題を掲げた。さらに、原子力災害により、立地競争力の強化には、「これまで以上の危機感を持って取り組むことが必要」との問題意識を強調。

産業競争力の観点からのエネルギー政策としては、①安定供給②低廉価格③環境適合――を基本に据えた上で、①原子力の安全性②有事におけるエネルギー安定供給③供給不安・コスト上昇・環境負荷増大――を震災で明らかになった課題としてあげた。原子力に関しては、震災による事故原因の徹底究明と安全規制の抜本的見直しを行なった上で、核燃料サイクルを含む位置付けや実施体制について検討すべきとしている。

委員からの意見では、千金楽健司・アパレルウェブ代表が、「中国の繊維製品生産拠点を日本に戻す動きが、今回の原発問題で完全に吹っ飛んだ」などと憂慮。一方、秋山咲恵・サキコーポレーション社長は、日本のロボット技術が活躍していない現状を述べた上、「原発事故はあってはならない」という思いが、基礎技術の実用化を妨げていることを指摘し、今後、事故の安定化を通じ他産業も支える一技術を育て上げる必要に言及した。

原子力ワンポイント

日本の放射線・放射能基準
――福島第一原発事故〈番外編⑧〉

放射線は専用の測定器を使って、大人～学童の場合は地上高一㍍で、また幼稚園児なら地上五十cm高で測ります。地面を測ると十倍以上になることもあり注意が必要です。

ゲンくん　放射線は専用の測定器を使って、放射線の強さを測るそうなんだけど、どんな測定器があるの。

カワさん　測定器には目的別に二タイプがあります。一つは土などの表面の線量率や空間に漂っている埃などによる空間線量率の計測を目的とするものと、もう一つは空間や対象物に放射能があるかの汚染チェックのためのもので、ベータ線が入射出来るような雲母の膜の窓のあるサーベイメータなどが該当します。

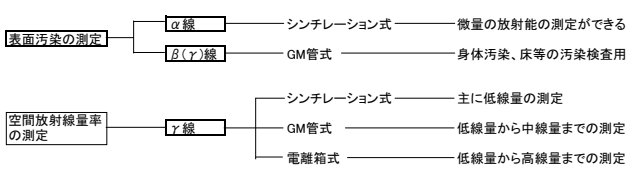
ゲンくん　線量率を測る測定器には何があるの。

カワさん　汚染を検出するには、広い底面積の円錐／四角錘などのセンサーの付いたガイガーミュラー（GM）管線式サーベイメータやシンチレーション式サーベイメータがあります。また、空間の線量率を測るには、棒状のセンサーの付いたGM管式サーベイメータ／シンチレーション式サーベイメータや円筒形のセンサーを持つ電離箱式サーベイメータがあります。最近は、α線とγ線が測定できるシリコン半導体の線量計なども出てきました。

ゲンくん　どうやって測るの。

測定器は正しい使い方で平均値を出す

カワさん　国が公表している放射線量は空間の線量率なので、空間線量率の測り方を説明します。空間の線量測定を行う機器では、体幹部の中心部の位置として、一般人の大人～学童を対象とする場合は地上五十cm高で測るなど、身長差を考慮に入れて測定する必要があります。また、測定は一回だけでなく、何回か測定して平均を出してください。一般に、地上五十cm高での線量率は一㍍高の線量率より地面からの放射線の影響をより受けますが、一〇％高くらいにしかなりません。しかし、この測定器を土の表面に置いて測ると、地面からの放射線の影響をたくさん受けるので、文部科学省が新聞などに公表している線量率の十倍以上になることもあり、注意が必要になります。例えば、地上高一㍍との説明は普通都で空間線量率〇・〇五～〇・〇七μSv／h（一時間当たりのマイクロシーベルト）の場所では、地面にその測定器を置いて測ると「〇・一μSv」くらいに表示されます。



ゲンくん　それで、「ここは新聞の発表値よりも二十倍も高い危険な場所だ！」という話も出てきたんだね。

カワさん　一般人が測定器を使うと、地面での測定器の場合はどのようにシーベルトに直すの。

カワさん　正確に変換しようとすると、放射性物質ごとに放出する放射線のエネルギーの分布が異なるので換算率が変わるので難しいのですが、百cpmで一μSvとみなして大雑把な評価をしてください。ちなみに今回放出量が多いとされているセシウム137の場合は、百二十cpmで一μSvとなります。

ゲンくん　線量率を測定器で測るときは、何回くらい測ればいいの。

カワさん　cpm（一分間あたりの計数）で表示されている測定器の場合はどのようにシーベルトに直すの。

カワさん　正確に変換しようとすると、放射性物質ごとに放出する放射線のエネルギーの分布が異なるので換算率が変わるので難しいのですが、百cpmで一μSvとみなして大雑把な評価をしてください。ちなみに今回放出量が多いとされているセシウム137の場合は、百二十cpmで一μSvとなります。

ゲンくん　線量率を測定器で測るときは、何回くらい測ればいいの。

カワさん　測定器には何があるの。

ゲンくん　放射線は専用の測定器を使って、大人～学童の場合は地上高一㍍で、また幼稚園児なら地上五十cm高で測ります。地面を測ると十倍以上になることもあり注意が必要です。

カワさん　測定器には目的別に二タイプがあります。一つは土などの表面の線量率や空間に漂っている埃などによる空間線量率の計測を目的とするものと、もう一つは空間や対象物に放射能があるかの汚染チェックのためのもので、ベータ線が入射出来るような雲母の膜の窓のあるサーベイメータなどが該当します。

ゲンくん　線量率を測る測定器には何があるの。

カワさん　汚染を検出するには、広い底面積の円錐／四角錘などのセンサーの付いたガイガーミュラー（GM）管線式サーベイメータやシンチレーション式サーベイメータがあります。また、空間の線量率を測るには、棒状のセンサーの付いたGM管式サーベイメータ／シンチレーション式サーベイメータや円筒形のセンサーを持つ電離箱式サーベイメータがあります。最近は、α線とγ線が測定できるシリコン半導体の線量計なども出てきました。

ゲンくん　どうやって測るの。

カワさん　国が公表している放射線量は空間の線量率なので、空間線量率の測り方を説明します。空間の線量測定を行う機器では、体幹部の中心部の位置として、一般人の大人～学童を対象とする場合は地上五十cm高で測るなど、身長差を考慮に入れて測定する必要があります。また、測定は一回だけでなく、何回か測定して平均を出してください。一般に、地上五十cm高での線量率は一㍍高の線量率より地面からの放射線の影響をより受けますが、一〇％高くらいにしかなりません。しかし、この測定器を土の表面に置いて測ると、地面からの放射線の影響をたくさん受けるので、文部科学省が新聞などに公表している線量率の十倍以上になることもあり、注意が必要になります。例えば、地上高一㍍との説明は普通都で空間線量率〇・〇五～〇・〇七μSv／h（一時間当たりのマイクロシーベルト）の場所では、地面にその測定器を置いて測ると「〇・一μSv」くらいに表示されます。

ゲンくん　それで、「ここは新聞の発表値よりも二十倍も高い危険な場所だ！」という話も出てきたんだね。

カワさん　一般人が測定器を使うと、地面での測定器の場合はどのようにシーベルトに直すの。

カワさん　正確に変換しようとすると、放射性物質ごとに放出する放射線のエネルギーの分布が異なるので換算率が変わるので難しいのですが、百cpmで一μSvとみなして大雑把な評価をしてください。ちなみに今回放出量が多いとされているセシウム137の場合は、百二十cpmで一μSvとなります。

ゲンくん　線量率を測定器で測るときは、何回くらい測ればいいの。

（原産協会・政策推進部）